

薬学委員会 薬学教育分科会（第24期・第2回）

日時：平成30年6月19日（火） 13:00～15:00

場所：日本学術会議6階 6-C 会議室（1）

出席者（敬称略）：佐治英郎、望月眞弓、赤池昭紀、伊藤美千穂、入江徹美、太田茂、奥直人、堤康央、橋田充、安原眞人

- 議題
- （1）前回議事要旨案の承認について
 - （2）薬学分野での教育課程編成上の参照基準作成について
 - （3）その他

議事録（案）

◎議題（1）前回議事要旨案の承認について

- 前回分科会（平成30年1月23日 第24期・第1回）の議事要旨案を承認した。

◎議題（2）薬学分野での教育課程編成上の参照基準作成について

- 前回議事要旨に基づき、委員長の太田連携会員の解説で第1回分科会での議事内容を振り返り、本第2回分科会は全員によるフリーディスカッションから始めることとした。
 - 平成29年度8月17日公開の薬学分野（4年制教育を中心とした）参照基準が既にある。そこでこの参照基準を改定する形で6年制についての内容も含んだものを作成するか、既存の参照基準とは別のものとして6年制についての参照基準を新しく作成するか、の2つの形式が考えられる。
 - ▶ 既存の参照基準は薬学分野の参照基準として作成しており、各論は4年制に特化しているが、総論は既に薬学全体をカバーして書いている。
 - ▶ 提言や報告は本文のページ数上限が決まっていることを留意する必要がある。
 - ▶ 学術会議各分野の参照基準については広田先生が取りまとめ役をされているので、著作権や引用などについての詳細については、委員長が広田先生に問い合わせる。
 - ▶ 参照基準は文部科学省からの依頼で作成するものなので、その依頼に答える形になるかを検証する必要がある。
 - ▶ 薬学では4年制と6年制が並立していることの意味がわかりにくいという幹事会での意見などを踏まえ、書き方に注意すべきである。
 - ▶ 6年制にはモデルコアカリキュラム（コアカリ）があるが、参照基準は外向きの発信、コアカリは内に学ぶ学生に対して示すものであり、発信される向きが異なる。またコアカリは常に改訂され変化するものであるが、参照基準は変わるものではない。
 - ▶ 薬学分野として要求される素養は4年制、6年制同じであると考えられ、それが共通部分となる。4年制、6年制でそれぞれに特化すべきところをそれと別に示すのが良い。
- ➡ 薬学分野としての範囲を示しつつ、まず4年制、6年制共通の特徴を書き、そののちに4年制、6年制それぞれの特徴を示す、書きぶりにしてはどうか。

- シンポジウムは、参照基準のたたき台になるものを作成してから、それを中心に議論を展開する形で企画するのが良いと考えられる。
 - ▶ また、その発展形として、現場の薬剤師、実務家等に向けての発信を意識したシンポジウムを今期3年目に開催してはどうか。
- 次回の分科会までに「（4年制、6年制それぞれの）特性」と「めざすべき基本的な素養（共通部分）」に分けて作業を進める。
 - ▶ 「6年制の特性」を作り、それと比較して既存の「4年制の特性」について述べたものを加筆修正する。
 - ▶ 6年制の特性に関して、望月第二部会員、入江連携会員、安原連携会員（主に入江連携会員）が作業する。
 - ▶ 既存の4年制の参照基準の構成を大きく変えないように作業するのが望ましいと考えられる。
 - ▶ 大学院については、薬学分野の教育は基本的に大学院があって成立するという考え方がある一方で、参照基準は学士力についてのものであり、大学院に行くことを前提とせず、学部で完結するように作成して欲しいとの文部科学省からの要請があるということを考慮すべきである。

◎議題（3）その他

- 次回の分科会は平成30年秋期に開催の予定で、日程調整は電子メール等を使って行う。